

第79回東北地方交通審議会  
船員部会 議事要録

平成27年 5月27日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会

## 第79回船員部会

日 時 平成27年5月27日(水) 15:30~

場 所 仙台第4合同庁舎 5階災害対策室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、高橋部会長代理(欠席)、  
佐々木委員(欠席)、船津委員(欠席)  
労働者委員 : 紺野委員、正路委員、鈴木委員  
使用者委員 : 佐藤委員、鶴本委員、湯村委員

運輸局 : 菅原海事振興部長、村木海事振興部次長  
峯田船員労働環境・海技資格課長  
鈴木船員労政課長  
佐々木労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について  
(2) その他

### 配付資料

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(平成27年3月分)  
資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)  
資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)  
資料4 新規求人・求職数(全国)  
資料5 有効求人・求職数(全国)  
資料6 有効求人倍率(東北管内)  
資料7 有効求人倍率(全国)  
資料8 27年漁期 TAC設定に関する意見交換会資料  
資料9 平成26年度 水産高校等卒業者就職等状況  
資料10 平成27年度 船員の特定最低賃金諮問検討資料  
資料11 新聞情報

## 議 事 概 要

### ◎開 会

【村木海事振興部次長】

〔第79回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料確認〕

### ◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【長谷部部会長】

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

お手元に配付されております議事次第の議題(1)管内の雇用等の状況について、事務局の方からご報告いただきます。

〔鈴木船員労政課長より資料1から資料7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

今の報告について、内容的なご意見、ご質問等ありましたらどうぞ…。

資料6と7は、商船と漁船を一緒にしたものでですか。

【鈴木船員労政課長】

そうです。

【長谷部部会長】

一緒にしたものですね。

【鈴木船員労政課長】

商船と漁船の合算です。

【長谷部部会長】

地域としてどれだけ減っているかということですね。

東北地方は別として、資料についてお聞きしたんですけども、全国的に需給のギャップというのは恐らくこのレベル、実態はこういうようになると思うんですけど、どういうふうにして埋めているんですか、アンダーグラウンドの市場では、労働力市場の方でうまくマッチングしているんですか。それとも外国人労働力で埋めているんですか。

【鈴木労働者委員】

いいえ、外国人は入っていないので…。

【長谷部部会長】

入っていない。

【鈴木労働者委員】

商船の方はです。

【長谷部部会長】

商船の方は…。漁船は入っていますよね。

【鈴木労働者委員】

漁船の方は、マルシップとか、技能実習生という形で入っています。

【長谷部部会長】

これはどうやって埋めているんですか。

【湯村使用者委員】

先ほどのご報告にもありましたけども、77歳の機関長を採用されたりしていませんよね。

やっぱりそういった状況で、高齢化を何とか回避したいんだけど、やむを得ず乗せざるを得ないと…。

【長谷部部会長】

現役復帰で…。

【湯村使用者委員】

現役復帰だったり、60歳過ぎてもそのまま定年延長して乗せていくというようにしないと…。

【長谷部部会長】

ということで何とかやり繰りしていると。

【湯村使用者委員】

そうです。

【鈴木労働者委員】

休暇の回りもあるので休暇中だけでもという形で、今湯村委員が言われたように、70歳過ぎた人を臨時的に頼むということはあります。

【湯村使用者委員】

本人を説得して、休暇を買い上げ、休暇期間を短くして乗船してもらうということもあります。

【長谷部部会長】

そうですか。

【鈴木船員労政課長】

あと、ある程度中堅クラス会社ですと、世代交代を進めていこうということで、求人を出して、応募があれば、どんどん人を若返らせていこうということで、求人が増えているというのもあります。

実際に人が足りなくて止まるという訳ではなくて、もうその準備に入っているといった部分も求人に含まれているので、自動的にそれで船が止まっているのではないかという話も聞きますけども、全国的にその船が、大体止まっているという状況までは、まだいっていないようです。

それを危惧して、中堅クラスの会社もどんどんそういう手当てを始めているところですよ。

【長谷部部会長】

企業だけで対応はできているんですね。

【鈴木船員労政課長】

それはもう、業界から運輸局にも何とかしてくれというのは要望が来ていまして…。

【長谷部部会長】

見通しはないですか。

【鈴木船員労政課長】

何とか水産高校の生徒さんをどんどん呼び込みましょうとか、あと調理関係ですと、調理師免許を持った人であれば船の経験がなくても雇いましょうとかという会社も、ぽつぽつは出てきている状況にはあります。

【長谷部部会長】

賃金水準は上がるんですか。

【鈴木船員労政課長】

賃金水準は多分需給バランスで上がっていると思います。

【長谷部部会長】

上がっているんですか、実際。

【鈴木船員労政課長】

もう売り手市場なので…。

【長谷部部会長】

本当に売り手市場ですか。

【鈴木船員労政課長】

売り手市場だと思います。会社の方はとっても弱いと思います。

【長谷部部会長】

卒業生の比率から見ても、確かにそうですね。

【佐藤使用者委員】

全体的に最賃が上がっているから、それに連動して、やっぱり企業ではプラスで出して求人しているんじゃないですかね。

【長谷部部会長】

でも、消費の需要の方は、社会全体としては減っていますよね、景気は良くないですよ。結構きついんじゃないですか。

【佐藤使用者委員】

ただ、これも慣れだから…。

【長谷部部会長】

そういう話ですか。

【佐藤使用者委員】

観光ツアーのお客さんもバス運賃が上がって、バス事故以来、1人の運転手が1日420キロまでしか運行できないよというのを、今まで600キロ走っていたからね。

北関東エリアから日帰りに来ていたのが、今はだめになってしまっている。だからバス代というか、ツアー費が2,000円ぐらいアップしています。

でも、これも一時的、来年ぐらいから少し潮目が変わるような気はしますけれどもね。デフレ脱却から慣れてくると、ある程度いい商品、今度は商品勝負で、お客さんも満足する商品であれば金を出すよということです。

【長谷部部会長】

そういう観測を持っているという話ですね。

【佐藤使用者委員】

そうです。

【長谷部部会長】

はい、鶴本委員。

【鶴本使用者委員】

個人的には、大変厳しい状況にあるんでないかなと思います。

機関部、機関長なんかは、優秀な人が引退されて、大分技術的にもレベルが落ちてきたような感じがします。

私も心配性なので、この先に行ったら、それこそ自主廃業も考えられるのではないかと考えているので、そこまで深刻だと思います。

新規の方々も入ってはきておりますけれども…。

【佐藤使用者委員】

機関長の問題だものね。

【鶴本使用者委員】

今乗っている機関長さんの場合、漁船の方は優秀な方ですからね。船が外国にいても、電話でやりとりして、それを理解して修理しますからいいんですけど、それができなくなってくるのかな…。

心配性の私の話なんですけども、これが外人さんの機関長になったらどうなるのか、言葉も通じないしね。

【長谷部部会長】

実際にそういうふうになりそうなんですか。

【佐藤使用者委員】

でも、七十何歳の機関長もいるから。

【鶴本使用者委員】

うちでも、78歳の機関長を頼んだことがあります。去年かな。丈夫な方だったから、あと繋ぎですよ。

1航海しかしてもらえないということで、途中で交代したんですね。色々、四苦八苦です。

【長谷部部会長】

こんな状況が続けば、いずれ枯渇する訳ですから…。

【鶴本使用者委員】

だと思います。

漁船の場合、航海が長いのもありますから、半年というのもありますし、1年とか、1年半とか、そんなものもありますから…。

【鈴木労働者委員】

航海の中間あたりで交代するのが一番ベストなんでしょうね。1年とか1年半というのは、長いですからね、遠洋マグロ船の場合は…。

【鶴本使用者委員】

長過ぎるんじゃないかと、私たちから見ても思います。良く頑張ってやっていたいていいるなど本当に感謝しています。

【長谷部部会長】

はい、ありがとうございます。状況がちょっとだけ分かりました。念頭に置きながら対応できればというように思います。

ご意見、ご質問等、それでよろしいでしょうか。ありがとうございます。  
では、ご了承いただいたということで、次に進みたいと思います。

## (2) その他

### 【長谷部部会長】

資料8について、事務局の方からお願いいたします。

### 【村木海事振興部次長】

それでは、前回の船員部会で、鈴木委員の方から「情報がありましたら」ということでしたので、資料8としてつけさせていただきます。

こちらの方は、今年の4月17日、水産庁主催の会議で「平成27年漁期TAC（漁獲可能量）設定に関する意見交換会」というのがありまして、その中で資料3として添付されたものになります。

この会議は、サンマのほか、マサバ、ゴマサバ、ズワイガニとかのTACを決める意見交換会ですが、その中のサンマの部分で、こちらの方の資料が添付されたということです。

内容的には備考に書いてありますとおり、中間的管理方針に則して、資源に悪影響を与えない範囲内で我が国の漁獲を確保という観点から、ABCですね、親魚量、そちらの維持を考えながら39.3万トンベースに過去10年間のうち、全漁獲量に対する日本の200海里内の漁獲割合を、最大67.1%を乗じた26.4万トンをTACの案とするという内容のようです。

それで、サンマの寿命が約2年ということで、「0歳魚」と「1歳魚」を管理するというので資源を調査しまして、「1歳魚の全部」と「0歳魚の場合は、6ヶ月以上で成熟の早いもの」とを合わせたのが親魚量ということにしているようなんですけども、それを管理するというような形になるようです。

去年、たくさん獲れたからといって、今年の親魚がそれだけいるかというと、必ずしもそういうことではないようです。

そういったこともあって26.4万トンという北大西洋北部、そちらの方の漁獲量を算定したということです。

私の方の専門外ということもあり、その程度のことしかお話しできないですが、詳しいことは、水産庁の方にお聞きいただきたいと思います。

### 【長谷部部会長】

ありがとうございます。

これは、鈴木委員からですか。

### 【鈴木労働者委員】

ありがとうございました。

### 【長谷部部会長】

詳しくは、水産庁の方へ直接ということでお願いします。

### 【鶴本使用者委員】

今年、20万2,000トンということでしたね。

### 【鈴木労働者委員】

そうです。今日、中央の方からも来ました。

【鶴本使用者委員】

去年大臣枠の水揚げ実績が21万6,000トンなんですよね。減ったことは減ったんだけど、何とかやれるのかなという感じだと思います。

【長谷部部会長】

ということでよろしいですか。どうもありがとうございます。

そんなにシビアではないと解釈してよろしいですね。

それでは、次に資料9と10についてご説明いただきます。

【鈴木船員労政課長】

では、資料9です。平成26年度の管内の海技短大と水産系高等学校の卒業者の就職状況の調査報告です。

例年調査を行っていて、今年も調査して取りまとめましたので資料として出させていただきました。4枚物です。

2ページ以降は1枚目の表の詳細項目になりますので、後で見ただければと思います。

1ページの方で説明いたしますと、管内の宮古海技短大を含めた水産高校、甲板、機関、通信合わせて398名の卒業生がありました。そのうち46名が水産系に進学、宮古海技短大ですと、海技大学校へ、水産高校系ですと専攻科、或いは海上技術短期大学校への進学が46名といった内訳です。ここは内数になっております。

船員就業者については、甲板が102名、機関が21名、合計で123名ということで、ここ3年続けて100名超えにはなっていますが、先ほど説明したように、最近船員不足が顕著になっていきますので、この辺、もっと数字を上げていくようにうちの方としても努力していくといったところです。

その内、就業先ということで管内、管外という区分も設けております。

管内の漁船は26名、商船11名、あと管外では漁船14名、商船72名といった状況です。資料9については以上です。

【長谷部部会長】

はい、どうもありがとうございます。

何かご質問等ございますでしょうか。

【紺野労働者委員】

毎年就職等を学校に確認しているということなんですけども、逆に在籍状況というか、定着状況というのも一緒に把握できたら…。

例えば2～3年で離職した方がいるのか。そういうのも一緒に確認できれば、もし今船員が少なくなっているという現状で、また船を下りて、次に船を探しているという方を、逆に斡旋できたらいいかなと思うんですけどもね。

【長谷部部会長】

できるんですか。

【鈴木船員労政課長】

定着率はちょっと厳しいですね。

【紺野労働者委員】

宮城県水産の場合ですと、学校に直接電話して、私はやりとりしているんですけど、聞く限りでは、2～3年で退職している方も、何名かおられるというので、次



もまた船に希望する方に関しては学校から直接連絡が来て、その方を斡旋するというような形でしているんですけど。

【長谷部部会長】

学校は卒業生をかなり把握しているんですか。

【鈴木船員労政課長】

1年ぐらいは多分学校の方に、生徒から連絡が行くと思うんです。

【鈴木労働者委員】

行かないのは分からないですね。

【鈴木船員労政課長】

ただ、2年、3年になると生徒の方から学校に連絡するかどうか…。

【鈴木労働者委員】

あまりないでしょうね。

【正路労働者委員】

あと学校の先生の対応の仕方みたいです。いや、就職担当の先生、当時の先生がいるかどうか。

【鈴木船員労政課長】

そうですねフォローをちゃんとしてくれる先生だと、多分生徒さんも、またその先生のところへ連絡して、次の就職を相談すればというのがもあるかもしれませんが、どうなんですか、その辺、ちょっと厳しい部分でもあるかなと…。

【長谷部部会長】

私の職場でも、色々なことで必要があるものですから、調べようとするんですが、できない。だから、例の労働力市場、学卒一括労働力市場で、就職した後の3年転職法則というのは、一般的に言われているだけで実態はどうか、それが大学の卒業生でどうかということの具体的な数字はありません。調べられません。

だから何か調べる方法があるんだったら教えてもらいたいなと思ったものですから、行政の方は何か得策を持っているのか、秘策を持っているんですか。

【鈴木船員労政課長】

ないですね。聞いたことないですね。離職率の統計はちょっと見たことはない。

【長谷部部会長】

調べられないんですよ。

一人一人フォローするしかなくて、それこそ、そのフォローしてくれるような先生がいるかどうかということなので、それも個人的なことでしょう。難しい話ですよ。

【正路労働者委員】

例えば水産高校の卒業生が陸上に就職しましたと、けれどもやはり船に乗りたいたとなると、水産高校に来るとかというような話は…。

【鈴木船員労政課長】

それもありますよね。1年ぐらい陸上に行ったけどもなんて。

【正路労働者委員】

最初に乗った船の関係で、船から船と横の繋がりで就職するというのもあるみたいですし…。

【鈴木船員労政課長】

確かに、一般的なところで7割ぐらい定着だというのは、よく言われていますけども…。

【長谷部部会長】

本当のところは分からないので…。

でも、それは労働組合の方で調べる話ではないんですか。

【正路労働者委員】

いや、それでもちょっと調べたことはあるんです。福島漁業のまき網で、結構定着率いいですから…。

【鈴木船員労政課長】

大きい会社、学校でなくて会社をサンプル的に何社かピックアップして、ここ何年間の定着率どうですかというのでもって掛け算して、全体こんなものでしょうみたいな推計の数字をとるパターンはあるかと思うんですけど、それが本当に実態に近いサンプルの会社を選べるかどうか、それも難しいので、単純な計算ではできないんですよ。

【長谷部部会長】

統計学的な有意性は最高であっていい訳ですから、大きくても小さくても、ずらっと並べて、それでピックアップして何件かやれば、それは統計学的な事実性というものを表しているの、それを上げようと思って全数調査しなければいけないという、全数調査と実際にサンプルをとってやったものとはあまり変わらないということですね。

【鈴木船員労政課長】

1回それが証明できれば、あとはサンプルでずっと追っていけるんでしょうけど…。

【長谷部部会長】

役所の方でやっていけるのは、そういう幾つかの企業からサンプルでやって、何回か聞いて、それで推計するくらいのことなんじゃないですかね。

労働組合の方で何かきちんとした調査をしていただくと、これは何か企業側の話じゃないですよ。

【菅原海事振興部長】

企業から正しい回答を得られるかというのも、ブラック企業がある中で、自分の会社の離職率が高いとか、正しく答えてくれるかどうかという疑問もあります。

【長谷部部会長】

こうなってくるともうお手上げですね。ということで済みません。沈黙するしかないですね。

そんなことだと思って下さい。もし頑張ってやって下されば、データをいただければ、私たちとしてもありがたいです。

よろしいですか、どうもありがとうございます。

それでは、資料10ですね。

【鈴木船員労政課長】

資料10は、今年度の最低賃金の諮問に関する資料ということで、ここ数年来、正式な諮問の決定前にある程度集まったデータを部会の方に示して下さいという要

望がありました。

それに沿って、今時点で集められるデータということで1枚目が平成26年度の全国の決定状況ですね。

一番上が全国となっているのが、これがいわゆる本省の政策審議会の方の担当、その下の北海道から、各地方運輸局となります。

平成26年度は、地方も含めて全局で諮問がありました。

それぞれ金額に差はありますけれども、改正されています。

東北に係る部分については薄い青色で色を付けてあります。近畿のところの大中型まき網が黄色のマークをしていますけど、この部分については、最賃の設定はあるんですけども、今現在、近畿の大中型まき網の事業者がいないということで、近畿では、このまき網については諮問をしませんでしたので、金額の変更はなしといったところですよ。

「×」のところは、そもそも最賃の設定がないという意味です。それ以外については、全て諮問があって改正されました。

2枚目が消費者物価指数の動向ということで、平成17年からの折れ線グラフになります。平成26年は皆さんご承知のように、消費税増税がありましたので、大きく数値は上がっております。全国では102.8、東北では104といったところで、消費者物価指数が上がっているといった状況です。

次のページには、標準生計費の関係です。これについては例年人事院勧告の参考資料で発表されているものなので、このデータ自体は去年の8月の人事院勧告に伴って出た参考資料の数値です。数値的には皆さん昨年見た数値と同じということですよ。

次のページも同じです。費目別の内訳になっております。

次のページが中央段階での妥結状況ということで、各団体1,800円のベースアップということで昨年に比べてアップしましたね。以上のアップでしたといったところですよ。

最後のページが燃料費の関係で、A重油の納入価格について平成26年までは暦年で、各月の金額を平均化したものです。

平成26年までは価格が結構上昇傾向でした。昨年後半あたりからちょっと下がっているんで、月別ということで下がっている部分、今年の1月、2月、3月でデータが公表されていますので、それを追加しました。1月以降は大体キロリットル70円台ということで、例年に比べると、今の時点ではちょっと低い状態、ただ、最近、ちょっとまた上昇傾向になっているので、この後、また値段が上がってくるのかなといった状況です。

あとこれに加えて、各業種の経営状況、あと各局の最賃の諮問状況等々を総合的に判断して東北として諮問するかどうかという決定を局長からしていただくといった流れです。時期的には例年どおり7月の末から8月の頭あたりに諮問するかしないかを決定する予定でいます。以上です。

**【長谷部部会長】**

アナウンスのみということでよろしいでしょうか。

物価は上がるでしょう。燃料も上がるでしょうね、もうこれから…。ということ

です。

それでは、意見交換、情報交換に移りたいと思います。

労働者委員の方から情報提供ございますか。

【鈴木労働者委員】

八戸の方で中型イカ釣り、平成27年度の漁期が始まりました。

5月15日を筆頭に17日にかけて23隻、太平洋のアカイカ漁に殆どの船が出港しました。2~3ヶ月の間操業して、八戸に入港し水揚げするということです。

去年冬場、太平洋側は全然アカイカの漁がなかったので、今年は皆さん期待して出港していったんですが、どうなるか、まだ今のところ分かりません。以上です。

【長谷部部会長】

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか、正路委員。

【正路労働者委員】

あと一つ、今月の19日、福島県のいわき小名浜港に遠洋マグロ船、昨年に引き続き2回目ですけれども、漁福丸さんが入港しまして、メバチマグロ40トン水揚げして、その後、市内の人たちに船内の見学会をしました。

そこに、いわき海星高校の人たちも見学に訪れたそうで、今年の3月の卒業生が漁船に4名ほど乗船したんですが、去年の影響あったのかなと思ひまして、また来年に期待したいなと思っております。

来年も、またしたいというように専務などは言っておりましたので、復興に向けてと、あと、「いわき」は悪いイメージがあるので、それも払拭したいというようなことを言っておりました。以上です。

【長谷部部会長】

はい、ありがとうございます。

放射能被害はどうなっているんですか。

【正路労働者委員】

やはり、まだありますね。

【長谷部部会長】

相馬なんかだめですよ。

【正路労働者委員】

試験操業は、まだしています。

【長谷部部会長】

何十年もかかる話でしょうから…。

はい、どうもありがとうございます。他にございますでしょうか。

【鈴木労働者委員】

以上です。

【長谷部部会長】

よろしいですか。はい、どうもありがとうございます。

それでは、使用者委員の方からいかがでしょうか、湯村委員。

【湯村使用者委員】

新聞情報で、内航の方で2点ほど取り上げていただいているんですけど、船員の2015年度の月間コストが1.83%増で平均月124万8,000円何がしとい

うのと、あと船員不足の深刻化ということで記事を書かせていただいているんですけども、これに関連して情報提供をしたいと思います。

内航の499トン型の鋼材船の用船料がリーマンショック以前の水準に戻ったというような記事が載っていました。これは5年ぶりに1,000万円台を超えたということなんですが、これはオペレーターと荷主の方でこうした船員コストの上昇への理解が深まって、それを運賃なり、用船料に加味してくれたという結果の現れです。

しかし、船員費だけでなく修繕費等も値上がりしてしまっていて、適正なコストにはまだ届いていないということです。

適正、そのためには、なお100～150万円ほど適正コストからは乖離しているというような実態が大半です。

よって、1,000万円を超えましたけども、秋以降、更に改善を求めていくということです。

あともう一つ、内航海運の船員不足の深刻化、仕事のイメージの湧くようなPRということで、従来、水産高校とか、海技短大とかいったところをターゲットに学校訪問なりして、業界のPRをしてきたんですけども、今後のことを考えると、これでもまだ十分ではないと…。

今後は、中学生以下の子供にも目を向けて、PRしていかななくてはいけないということで、内航海運について教科書で小学生、中学生の授業で取り上げてもらう、それで業界の紹介もしてもらいたいということで、国会議員さんで構成されている海事振興連盟というのがあるんですけど、そういうところに、義務教育の場で取り上げていただいて、要望させていただきたいということで、今訴えているところです。

【長谷部部会長】

はい、色々大変ですが、ありがとうございます。鶴本委員。

【鶴本使用者委員】

新聞情報にも載っていたんですけども、漁業に関してですけども、カツオが気仙沼に5月11日、去年より1ヶ月早く初水揚げされたということからも分かるように、今年は北上が早くて、量的にも期待が持てるんじゃないかというようなことで、大変いいことだなと思っていたんですけど、鮭鱒船が、去年は5月26日に前線基地を出港して、6月1日から操業が始まったんですけども、今年はロシアの関係で、監視体制が変わったというような話も聞いていますし、私なりにはプーチンさんの国内の問題も関係しているのかなという感じがしているんですけど、未だ妥結していないんです。

船主さんと、さきほども電話で話をしたんですけども、深刻な状況で「出られないかもしれない」とおっしゃっていました。

それから、サンマに関してなんですが、調査船、詳しく言うと北太平洋のサンマ公海漁場を活用した漁期拡大により経営改善に資することを目的とした調査に、うちでも出ているんですけど、今年、ホンサンマが幾らなのかは、私の耳には届いていないので、これは分からないことです。船頭から言われたのは、今年も外国船が公海上で操業していると。

去年は300トンから500トンの船が100隻以上来ていたと。そして、トラ

網と称していましたが、水中ライト、日本だと禁止だと思っんですが、それを使って漁獲しているらしいんです。

これは資源問題になるのではないかなと危惧しております、とにかく南下する魚を途中でそういうような漁法で獲ったりしているものですから、うちの漁撈長は、200海里に入ってくる前に獲られてしまっって資源問題になる、非常に心配だと…。

それから小型船の方々は、大型船は沖まで出て行く能力もあるからだろうけど、小型船は南下する魚を、岸に寄ってくる魚を待ち構えて獲るものですから、悪い影響が出なければいいなと心配しています。

ようやく各国間で漁業交渉みたいなものをしていると思うんですけど、とにかく一時も早く国際的な取り決めをして、資源が永続的に続くようにしていただきたいなと思っております。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

2つくらい質問させていただいてよろしいですか。

【鶴本使用者委員】

はい。

【長谷部部会長】

1つは、外国船ですが、言われているのは中国船でよろしいですか。それだけじゃないんですか。

【鶴本使用者委員】

中国、台湾、韓国ですね。

【長谷部部会長】

これは、実際には協定とか何か交渉は進めていないんですか。

【鶴本使用者委員】

とにかく無秩序、無規制の中でやっていますからね。

【鈴木労働者委員】

公海上なので、とりあえずはないということで、それで今年の7月19日に、日本を中心に北太平洋漁業資源保存委員会で、保存条約というのが発効するんですね。その中には、韓国、中国、アメリカ、ロシアなど（カナダ、台湾）、5～6ヶ国が入ります。その中で話し合いをしていきたいというような話は聞いています。

【鶴本使用者委員】

遅いんですね。

【鈴木労働者委員】

やるのが遅いんですね。

【鶴本使用者委員】

スタートが遅すぎるんだもの。

【佐藤使用者委員】

中国で、領海内に来てサンゴを採っていくんだからね。公海で採るのはどおってことない…。

【鶴本使用者委員】

だって、あの環礁を埋め立てて飛行場を造るなんていうのも、ちょっと我々から

すると理解できないようなことを平然とやってのけるから…。

【佐藤使用者委員】

今捕鯨が大分打撃を受けているけど、食料が足りなくなると、中国ではクジラも獲りに行くよ、もう。だからイルカの問題ではないんだね。

【鶴本使用者委員】

やりかねませんね。

【長谷部部会長】

若い新大国の、まだ大人になり切らない外交ですからね。

そういうことは2つ目の質問、いいですか。

ちまたでは、日本の漁業について「資源乱獲だ。」、つまり稚魚なんかも一緒に獲っちゃって、枯渇の危険性を生み出すような漁業だなんていうように言われているのをちょっと聞いたんですけど、実態はどうなんですか。

【鶴本使用者委員】

何の漁業ですか。

【鈴木労働者委員】

多分、部会長が言われているのは、まき網の話かな。マグロのまき網で何か稚魚までみんな獲ってどうのこうのって、新聞か何かに出たみたいですよ。どこかの大学の先生が…。

【鶴本使用者委員】

パヤオって「浮魚礁」というんですかね、FADs (Fish Aggregating Devices) というんですけども、そういうのって時間決められているんですね。

それを日本は守っていると思うんだけども…。

【鈴木労働者委員】

そういう話じゃなくて、何か最近出たでしょう、多分新聞か何かで…。

【長谷部部会長】

ちょっと耳に挟んだんですよ。

【鈴木労働者委員】

それが、まき網業界では遺憾だと怒っているんですね。

いかにも、まき網だけがそういうことをやって枯渇させているみたいな…、小さいやつまで獲って。

【鈴木船員労政課長】

30キロ未満を獲るのかという…。

【鈴木労働者委員】

太平洋クロマグロがどうのこうのっていうやつですよ。

それで30キロ未満、難しいんですね。遠洋マグロ船は釣りで獲っているから資源に一番やさしいという話もありますしね。

【鶴本使用者委員】

私たちはその立場なので、何とも言いようがないけれども、一網打尽是打尽ですよ。

釣りの場合は餌を食べたくなければ引っかからない訳で、生き延びるんですね。

ところが網は理屈を言わせてもらおうと、餌を食いたいものも食いたくないものも

関係なく根こそぎ獲るから、そう言われてもしょうがないのかなと。

【長谷部部長】

12ページの毎日新聞の5月10日の記事ですかね。「メバチマグロ乱獲深刻」、あまり、そういうところだけクローズアップすると、漁業に対するサポートが何かやりにくくなることもあるかもしれないです、世論としては…。

そんなことを思ったものですから、ちょっと確かめようと思ったんですね。

【鶴本使用者委員】

確かにそういう一面もあるとは思いますが、ただ、一方の業者の話ばかり聞いても…。

【正路労働者委員】

あと実態として、海水温度も変化しているということもね…。

【長谷部部長】

気温が上がっている。

【正路労働者委員】

実は日本海の方なんですけど、海水温が上がって、潮の流れもこれまでとは違うような流れもあるというようなものもあるそうです。

この新聞の記事はマグロですが、北海道の方の日本海では、スケソウダラが資源的に減少しているということで、どうして減少したんだろうかと地元の船乗りというか漁撈長代理というか、沖底で獲っているんですけど、過去にこういう所で獲れたと思って行っても、全く潮の流れが違ったり、温度が変わるということで、獲り過ぎということではないようなことも現場の方では言っています。

【長谷部部長】

そうですか、勉強になりました。

【鶴本使用者委員】

今まで獲れていなかったマンボウなんか、北海道で獲れるようになったりね。

【鈴木労働者委員】

そういうのは、やはりみんな水温の関係ですものね。

【鶴本使用者委員】

みんな温暖化の影響が分かりませんが…。

【鈴木労働者委員】

今回、利尻、礼文の方まであまりマグロが北上していかないものが、利尻、礼文で獲れたりとかというのがありますので。

【長谷部部長】

とにかく、南の方の海水温の上昇というのは半端なものじゃないみたいですから、それが色々ところで大きな影響を与えているんでしょうからね。

現場からどういうふう聞こえてくるか、今初めて聞いて…。

【鶴本使用者委員】

あと、さきほどのサケ、マスの延びていることに関連するんですけど、ロシアの200海里内に行って、サンマも獲らせてもらっている時期があるんですけど、サンマのはしりの時ですね。

それに影響しなければいいなと思って、ちょっと心配の種があるんです。



【長谷部部会長】

外交の失敗だと言われてますね。ロシアとの関係は、完全に。

一連のロシアとの外交は、もうしばらく冬の時代を迎えるだろうというように聞きましたけども…。

余りいい話じゃないですね。

【鶴本使用者委員】

もっと明るい話にしたいと思います。

【長谷部部会長】

どうもありがとうございました。佐藤委員、よろしいですか。

【佐藤使用者委員】

はい。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

それでは、最後にもう一つ、「めざせ！海技者セミナー」をどうぞ。

【鈴木船員労政課長】

今年も海技者セミナーを仙台で開催することにいたしました。去年とほぼ同じ時期、9月5日になります。

まずは参加していただく企業の募集ということで、来週の火曜日にプレスリリースをしまして、去年は15社参加していただいたんですけど、今回、もうちょっと枠を広げて18社の枠でやりたいと思っております。

その後、企業が決まった後に、今度は水産高校とか、或いは一般の求職者に対して参加のチラシをつくって周知するといった流れになります。

ということで決定はしましたけれど、新聞報道は来週なので、皆さん、お手持ちの内容は余り外に言わないように…。先着順なので、知っている人がぽんと来ちゃうと、参加しようと思っていた人が19番目でアウトとかってなっても困るので、よろしく願います。

【紺野労働者委員】

反対に、これは募集を出すと、会社の方はすぐ埋まるんですか。

【鈴木船員労政課長】

一昨年まではそうでもなかったんですけど、去年あたりから、去年も15に増やしたんですけども…。

当初12だったんですよ。ただ締め切りした後に「いや参加したい」というのがあって、「済みません枠が」と言ったならば、「いや、会場の中に入らなければ玄関の外に机を置いてやってもいいですから…」と言われたので、それは困るので、「では、枠を何とかつくりましょう」ということで、去年は15になったんです。

その後も何件か参加したかったというのがあったので、みんな西の方の内航船の会社とか、あとはタンカー系の会社なんですけど、積極的に言ってくるので、ちょっと枠を広げてやりたいなと思っていました。

【鈴木労働者委員】

結構就職希望者もいるんですか。実際に、これに来て乗るといふ人もいますか。

【鈴木船員労政課長】

今のところメインは、やっぱり宮城県水産とか海技短大の子なんです。

【鈴木労働者委員】

なるほどね。

【正路労働者委員】

去年も1人とか2人、1次審査は受かったけれども、最終的には「ゼロ」という感じでした。

【鈴木船員労政課長】

そうです。殆どの生徒さんは、面接よりも、いわゆる企業説明の方になっちゃうので…。

ただ、それによって海技短大の先生に言わせると、「意識付けができるので、就職に向かって前向きになるいいイベントです。」というようには言っていないので…。

【長谷部部会長】

長い目で見たいと。

【鈴木船員労政課長】

昔は海技短大の方も就職率は余り良くなかったんですけど、ここ数年は、もうほぼ100%状態になっているんです。

仙台のほかにも、東京とかでもセミナーをやっていますので、そちらの方にも、練習船の寄港に合わせるという部分もありますので、何回か、そういうのに参加しているようです。参考情報です。

【長谷部部会長】

ということですね。皆さん、くれぐれも、ちょっとしばらくの間口にシャッターをして下さい。お願いします。

よろしいですか。（「はい」の声あり）

では、どうもありがとうございました。

では、本日の議事、これで終了とさせていただきますと思います。

【正路労働者委員】

済みません。終わる前に一つお願いしておきます。

今日言おうかどうしようかと思いましたが、資料が出ましたので、是非、今年も最賃部会が開かれるように、よろしくご検討をお願いいたします。

それを是非ともお願いしたかったので…。

【長谷部部会長】

よろしいですか。ということだそうです。

次回の船員部会ですけれども、6月26日、いつものように金曜日の15時30分から、今度は4階で開催したいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

◎閉 会